

県民生活行動からみた地域の盛衰

財団法人岡山経済研究所
研究員 小川雄三

1 はじめに

「商業統計調査」によると、わが国の小売店舗数は昭和57年の172万1465店をピークに減少傾向に転じ、平成9年には141万9685店にまで減少した。15年間に30万1780店の減少である。岡山県も同様で、昭和57年の28,330店のピークから平成9年には22,915店となり、5,415店、19%の減少となっている。これを個人商店に限定してみると、57年の20,488店が、9年には12,861店となっており、7,627店もの減少である。15年間に約4割もの個人商店が姿を消したことになる。この間、新規開業した小売店も当然あるため、廃業した小売店数はこれ以上に上るものと考えられる。こうした小売店の廃業に伴う減少は、岡山県内約200の商店街に空き店舗を生じさせ、商店街を衰退へと導くことになる。商店街の衰退は、地域の衰退に繋がる懸念さえある。

一方、商店街の衰退は、地域住民からみれば生活行動の重要部分である買物の利便性が損なわれること、つまり遠距離の商店や商店街にわざわざ買物に出掛けなければならないことになり、地域住民の生活行動を大きく変化させることになる。この変化は「岡山県民の生活行動圏調査」で捉えることが可能であるため、岡山県の商圈変化から地域の盛衰をみ、問題を提起するのがここでのテーマである。

2 「岡山県民の生活行動圏調査」とは

「岡山県民の生活行動圏調査」は、岡山経済研究所の設立間もない昭和54年より開始したアンケート調査である。第1回調査結果報告書の序論によると、「今日のわれわれの日常生活は多様化し、多種多様な生活様式をもつとともに、モータリゼーション等の生活手段も向上し、ますますわれわれの毎日の生活行動は行政区域を越えて、都市間にまたがり、広範囲の行動圏を形成している。しかし、その実態を正確に、タイムリーに把握することはなかなか困難であるため、かつて同一時点で全体的に調査されたことはなかった。県民の利便性の向上および県民の生活充実の観点から、今後の対応策を樹立するためには、まず、今日の県民の生活行動の実態を正確に把握することが何よりも重要である。そこで「岡山県民の生活行動圏調査」を実施することにした」とある。つまり、県民の生活行動の実態の正確な把握が生活行動圏調査の目的である。

3 調査概要

昭和54年に開始した調査は、60年までは2年に1回、それ以後は3年に1回の間隔で実施している。調査エリアは、岡山県下78市町村に加え、2回目以降は広島県福山市、香川県高松市、坂出市を、さらに5回目（63年）以降は香川県丸亀市を追加した。アンケート調査対象者は、そこに在住する18歳以上の住民で、1世帯1サンプルとしている。ただし、1市町村あたりの最小サンプル数は50である。配布サンプル数は第2回調査以降8,500～8,600で、各家庭の個別訪問、聞き取り方式で実施していることから、回収率は90%を超える高さとなっている（表1）。

表1 岡山県民の生活行動圏調査概要

回数	実施年	配布数	回収数	回収率	調査対象地域
第1回	昭54年	7,277	6,999	96.2%	岡山県下78市町村
2	56	8,507	8,301	97.6	福山市、高松市、坂出市を追加
3	58	8,508	8,324	97.8	
4	60	8,508	7,092	83.4	
5	63	8,601	7,775	90.4	丸亀市を追加
6	平 3	8,601	7,695	89.5	
7	6	8,600	7,823	91.0	
8	9	8,600	7,891	91.8	

調査項目は、県民の生活行動の主要なものとして通勤・通学、観光、医療、交際、買物の5つをピックアップしている。このうち観光は県内と県外および海外、医療は軽症時と重症時、交際は親せき訪問、お墓参り、友人訪問、恩師訪問の4形態、買物は、生鮮食品、保存食品、家庭・台所用品など15品目について、主たる買物場所（県内190カ所を設定）、主に利用する店舗（一般商店、スーパーなど）、その際の利用交通機関（バス、乗用車など）とそこに行くまでに掛かる時間、その店舗を利用する理由、反対に不満も尋ねている。

4 調査の特徴

個々の小売店の場合、環境変化（ライバル店の出現、事業所・工場等の移転、新道路、新駅の完成など）に対応して、取り扱い商品、営業形態、営業時間などを変更するなどの対策をたてるであろう。個々の小売店の集団としての商店街（地域の商業）も同じことがいえる。しかしこの場合、商店街の性格を把握していなければ、実効のある対策はたてられない。それは、商店街はその規模、専門化の程度（取り扱い商品とその構成比率）などによって性格づけられるが、これを統計的に押さえておくということである。

消費購買調査は、これまで商店街診断、商店街振興策樹立に際し実施するケースも見られたが、それは一時的、断片的であり、次のようなウイークポイントがあった。つま

り、①岡山県全体・統一的観点からの調査ではないため、商圈が正確に捉えられていない場合もある、②調査実施時期、実施方法、対象者等が不揃いであるため、他の調査結果との比較や利用が難しい——といった点である。

これに対して岡山県民の生活行動圏調査は、①買物を生活行動の1つとして捉えている、②継続調査であり時系列変化が把握できる、③1世帯1サンプルとしているため、家族構成員個々の差異が反映できる、④層別二段抽出法により実施しているため、地域的な偏りが排除できる——という特性を有している。

なお、集計、分析にあたり回収したサンプルが何人を代表するかについて、「引き延ばし係数」を使用している。このため、集計結果には当然のことながら、ある程度の誤差が見込まれる。

- ・ある市町村の住民が行動した人数＝ある市町村の回答数×ある市町村の引き延ばし係数
- ・ある市町村の引き延ばし係数＝ある市町村の18歳以上人口÷ある市町村の回収数

5 78市町村民の購買場所の変化

商圈の変化を捉える第1段階として、県内78市町村の地元購買依存度を見ることにした。ここで地元購買依存度とは、岡山市の洋服を例にとれば、岡山市民で洋服を購買した人のうち、地元岡山市で購買した人の比率のことである。

- ・岡山市の洋服の地元購買依存度＝岡山市内で洋服を購買した岡山市民の数÷洋服を購買した岡山市民の総数

従って、ある商品について地元購買依存度が100%であれば、購買力は流出していないことになる。「100－地元購買依存度」が他地域への流出割合であり、購買力の流出により、商圈が形成されることになる。

なお商圈については、各市町村への依存度により設定しており、80%以上を第1次商圈、60%以上80%未満を第2次商圈、40%以上60%未満を第3次商圈、20%以上40%未満を第4次商圈としている。

また商品については、調査15品目の中から最寄品の代表品目として生鮮食品を、買回品として洋服、買回品ではあるものの最寄品的な性格もある家庭電気製品の3品目を取り上げた。

(1) 生鮮食品の地元購買依存度

生鮮食品の地元購買依存度をみると（表2）、昭和54年には地元購買依存度が80%以上の市町村は、岡山市、倉敷市など10市をはじめ、御津町、建部町など49町村の合計59市町村あった。しかし、地元購買依存度が80%以上、つまり自らが第1次商圈となる市町村数は、56年48、58年46、60年42、63年32、3年31、6年22、9年18となっており、若干の変動は見られるものの明らかに減少傾向にある。また、自らが第1次商圈になって

表2 生鮮食品の地元購買依存度の推移

単位：%

現住所	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
1 岡山市	98.2	97.6	97.6	97.6	97.3	96.7	97.1	97.7
2 倉敷市	95.7	95.2	92.1	94.2	96.0	91.4	93.3	96.5
3 津山市	99.2	88.8	97.4	100.0	99.4	93.7	95.9	97.5
4 玉野市	95.9	89.6	89.0	93.5	89.0	84.9	76.0	67.7
5 笠岡市	94.9	89.9	88.6	87.2	94.8	83.3	78.3	91.7
6 井原市	95.7	88.1	88.0	98.6	83.3	85.1	89.2	87.2
7 総社市	94.4	91.8	89.1	82.8	95.8	97.1	90.8	92.6
8 高梁市	100.0	93.0	93.1	97.6	91.4	98.8	77.8	95.3
9 新見市	98.3	100.0	98.5	100.0	98.2	93.2	86.3	82.5
10 備前市	87.2	84.1	89.3	85.0	83.7	86.2	75.6	87.1
11 御津町	81.4	84.1	80.4	83.3	85.4	65.8	56.0	91.5
12 建部町	100.0	100.0	95.8	86.4	88.6	73.8	84.9	71.1
13 加茂川町	97.9	83.3	83.0	94.3	75.0	51.9	72.7	65.0
14 瀬戸町	89.8	72.7	73.5	80.0	62.7	54.7	82.4	75.4
15 山陽町	88.7	94.7	77.1	92.7	67.6	83.3	83.8	92.8
16 赤穂町	74.5	73.0	78.0	88.2	93.5	70.3	48.1	78.3
17 熊山町	64.8	82.9	89.5	82.1	80.6	60.5	41.8	55.1
18 吉井町	93.0	87.3	91.3	73.7	56.4	47.5	56.4	92.6
19 日生町	92.9	87.3	86.0	94.2	91.7	60.5	60.0	59.6
20 吉永町	81.8	83.3	89.1	79.2	93.3	75.6	67.4	28.6
21 佐伯町	50.8	75.5	65.6	63.6	61.7	60.0	50.0	46.7
22 和気町	94.3	92.3	93.3	69.2	75.0	81.3	72.4	78.3
23 牛久保町	78.0	75.8	82.9	73.2	77.5	76.7	56.3	45.5
24 邑久町	86.4	93.9	94.6	97.5	79.6	90.8	73.6	88.7
25 長門町	70.8	68.6	62.7	63.0	66.7	72.7	79.1	44.4
26 瀬戸町	89.6	64.2	92.9	87.5	87.1	81.0	80.0	77.6
27 早瀬町	78.2	84.1	57.5	53.3	67.6	72.2	61.2	69.8
28 山手村	54.9	31.6	51.2	23.8	34.3	58.8	18.8	2.9
29 清瀬村	81.3	60.9	52.4	56.1	59.5	41.7	33.3	27.5
30 船穂町	63.2	68.0	61.4	55.1	53.6	88.9	27.3	55.3
31 金方町	82.5	83.1	87.5	84.2	70.9	68.1	95.6	65.9
32 鞆町	85.5	71.4	68.5	42.9	77.5	89.5	77.9	85.5
33 寄島町	94.0	92.1	88.1	95.0	86.0	89.1	51.2	76.1
34 里庄町	76.6	72.9	51.3	40.0	68.9	38.3	47.8	26.5
35 矢野町	98.8	92.9	90.6	92.3	92.3	88.0	80.4	72.2
36 美芳町	93.1	75.4	85.0	95.6	90.9	84.1	72.4	63.3
37 芳井町	60.5	75.5	81.3	54.1	73.2	33.3	22.5	53.1
38 真備町	92.9	91.5	96.7	95.2	87.0	83.3	90.8	93.2
39 北原町	81.4	87.2	80.0	73.3	84.6	51.1	34.5	28.9
40 北条町	94.9	93.8	76.7	95.9	89.5	100.0	61.9	58.3
41 賀陽町	94.8	90.7	90.9	94.3	85.1	74.0	76.4	76.9
42 成羽町	98.0	100.0	97.0	95.0	97.5	84.9	71.7	51.1
43 川上町	93.5	100.0	90.0	82.4	92.9	80.5	80.0	66.7
44 備前中津町	85.0	91.2	79.3	77.8	69.6	51.9	51.1	50.0
45 大佐町	86.5	100.0	80.5	72.7	67.7	84.4	83.3	70.0
46 西郷町	91.9	71.7	80.0	40.7	45.5	36.4	10.0	25.0
47 西郷町	50.9	66.7	70.2	73.0	48.6	46.4	55.3	29.8
48 西郷町	93.0	78.8	78.4	81.8	50.0	94.3	52.8	34.1
49 勝山町	90.4	81.0	89.3	91.7	86.5	78.1	83.3	70.4
50 勝原町	91.1	85.7	91.8	90.0	82.5	94.4	70.4	57.4
51 湯原町	89.6	64.0	78.3	71.8	73.0	56.4	29.6	30.4
52 久世町	97.4	95.6	91.5	92.1	91.7	91.8	90.4	90.7
53 美甘村	83.8	85.3	65.2	80.0	65.4	64.3	63.3	75.5
54 新庄村	65.9	71.4	52.5	69.8	83.3	56.1	41.2	28.2
55 新川上村	82.8	72.5	95.2	87.5	61.5	79.4	54.3	47.5
56 八束村	97.1	90.7	100.0	91.1	77.8	72.0	73.3	75.0
57 中茂村	84.1	85.0	78.3	67.5	79.1	48.8	56.1	39.5
58 加茂町	64.9	89.6	77.6	91.8	93.9	64.1	68.8	81.5
59 富田村	71.4	75.7	67.5	36.6	64.1	69.8	24.3	11.9
60 奥津村	54.0	48.9	73.2	46.7	61.1	36.7	30.0	2.3
61 上原村	94.3	61.5	88.9	65.1	66.7	35.4	27.9	18.5
62 阿波村	72.5	84.6	55.3	75.6	55.3	28.9	18.4	23.1
63 阿波村	88.9	70.0	88.1	68.2	75.0	73.8	72.6	67.6
64 勝田町	80.0	18.6	84.8	50.0	54.5	69.4	45.9	54.1
65 勝央町	95.5	88.7	94.6	88.9	90.5	78.8	81.8	81.5
66 奈義町	97.8	95.0	68.6	92.3	76.5	78.3	81.8	61.1
67 勝北町	89.8	90.9	83.8	71.1	66.7	73.2	78.8	43.8
68 大原町	98.5	94.0	76.7	86.3	90.9	84.1	88.9	76.7
69 東栗倉村	35.2	24.3	22.2	7.3	56.3	8.8	45.9	12.2
70 西栗倉村	86.7	61.1	61.8	65.0	73.0	60.0	34.9	27.5
71 美作町	100.0	89.8	91.7	93.5	89.4	92.1	87.8	70.0
72 作東町	98.1	97.3	86.0	60.5	76.7	62.8	41.0	31.8
73 英田町	81.3	55.6	78.9	71.4	60.4	60.0	77.5	37.1
74 中田町	86.5	85.5	79.6	83.3	79.5	45.5	91.3	67.3
75 旭町	82.6	72.0	84.1	42.5	80.0	85.4	56.4	53.5
76 久米町	93.9	92.7	85.2	74.4	60.7	85.7	54.5	52.6
77 久米町	38.7	49.1	37.5	34.6	45.2	14.8	28.6	10.9
78 榎原町	60.6	71.7	55.1	47.8	47.4	62.5	46.9	24.4

いない市町村においても、地元購買依存度が低下している地域が多くみられる。また、地元購買依存度が50%以下、つまり購買者の過半数が域外に流出している市町村数は、昭和54年には東粟倉村と久米町の2町村であったが、56年5町村、58年3町村、60年10町村、63年5町村、3年13町村、6年20町村、9年26町村と推移しており、特に、平成に入り急激に増加している。このことは、居住地以外の市町村に、生鮮食品をわざわざ買物に出掛ける購買者割合が増加したことを示すものである（生鮮食品の場合、女性の社会進出等で勤務先市町村で購買するケースもあると考えられるが、そのみではこれ程の変動はないであろう）。

(2) 洋服の地元購買依存度

次は洋服である（表3）。代表的な買回品である洋服は、商業集積地で購買される傾向が強いことから、地元購買依存度が80%以上ある市町村は、岡山市と津山市の2市のみとなっている。その津山市も9年の調査では78.9%となっているが（最新の調査では80%を割ったが、前述のようにある程度の誤差があるため、1回の調査結果だけで第1次商圈から脱落したとは即断できない）、この両市が岡山県の商業核になっていることは明らかである。

2市以外の状況を見ると、やはり地元購買依存度は低下傾向にある市町村が多くなっている。生鮮食品と同様に購買力が半分以上域外に流出している市町村の数を見ると、昭和54年には63であった。その後、56年67、58年65、60年67、63年69、平成3年68、6年71、9年74と年を追って増加してきている。しかし、もともと地域外流出が高い分、市町村の増加数はそれ程多くはない。

(3) 家庭電気製品の地元購買依存度

最後、同様に家庭電気製品についてみると（表4）、昭和54年には家庭電気製品の地元購買依存度が80%以上であったのは21市町村であった。ところがその後、56年16、58年11、60年11、63年5、平成3年6、6年7、9年5と、急激に減少した。これに対して地元購買依存度が50%以下の市町村数は、54年には21町村であったものが、56年25、58年36、60年40、63年47、平成3年52、6年56、9年58と急増している。

昭和54年調査から平成9年調査の地元購買依存度の変動市町村数をみたわけであるが、購買依存度の変動市町村数は、3品目の中では洋服が最も少なくなっている。これは、自分自身の嗜好が大きなウエイトをもつ洋服の場合、購買する店舗、ブランドがほぼ固定しており、新しい店舗が開店しても、よほど大きな特徴、魅力をもっていないと、吸引力はそれ程ではなく、商圈を変化させるまでには至らないためと考えられよう。つまり、地元購買依存度が変動している市町村数が少ないということは、商圈が大きく変化していないということであり、反対に、地元購買依存度が変動している市町村数が多い生鮮食品、家庭電気製品は商圈が大きく変化していることになる。

表3 洋服の地元購買依存度の推移

単位：%

現住所	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
1 岡山市	97.4	97.3	98.3	98.3	96.2	96.4	95.8	94.9
2 倉敷市	75.8	75.5	76.7	76.9	75.9	76.6	72.0	77.1
3 津山市	94.5	92.1	94.0	97.4	94.4	89.0	90.3	78.9
4 玉野市	57.3	43.5	45.9	43.5	29.2	33.5	35.9	28.1
5 笠岡市	62.8	58.4	65.7	53.4	52.1	42.6	32.5	32.9
6 井原市	43.5	31.7	43.3	37.3	32.8	26.6	40.3	34.2
7 総社市	52.4	47.5	43.0	48.0	46.7	57.0	52.9	49.6
8 高梁市	76.7	62.0	59.4	57.1	43.1	57.3	47.3	57.1
9 新見市	68.8	64.2	65.7	70.0	52.7	45.7	46.6	46.8
10 備前市	21.4	32.9	34.7	37.3	27.0	36.4	28.3	38.7
11 津部町	42.9	5.0	39.1	12.0	9.5	4.4	6.0	14.6
12 建部町	36.8	38.1	59.5	27.9	34.1	50.0	26.8	20.4
13 加茂川町	43.2	24.1	10.5	5.3	0.0	0.0	6.8	2.8
14 瀬戸町	24.0	22.9	42.4	16.7	24.0	8.1	8.0	15.8
15 山陽町	15.2	11.1	22.8	18.2	23.4	23.2	23.9	23.9
16 赤坂町	4.7	30.0	10.0	16.1	13.7	10.5	0.0	8.9
17 熊山町	13.5	21.6	24.2	35.7	19.4	17.0	12.1	13.0
18 吉井町	43.4	34.1	37.8	24.3	26.2	17.1	2.1	14.3
19 日生町	27.1	41.7	12.5	25.5	26.5	13.3	13.2	13.7
20 吉永町	20.0	16.3	20.0	24.5	25.0	11.1	7.7	13.2
21 佐伯町	3.7	7.9	2.6	0.0	6.7	17.9	6.4	7.4
22 和気町	43.4	47.1	55.6	23.1	26.4	14.6	20.0	20.0
23 牛窓町	22.6	33.3	12.8	32.4	22.0	13.9	14.3	9.5
24 邑久町	29.2	40.4	37.1	20.5	25.8	33.8	22.4	22.0
25 長船町	19.6	31.9	16.7	13.3	17.0	36.4	19.2	4.5
26 瀬崎町	11.6	4.1	4.9	10.8	8.0	17.8	16.7	20.3
27 早島町	12.7	8.9	4.3	2.2	2.8	26.8	3.2	0.0
28 山手村	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.9	0.0	0.0
29 清音村	4.1	0.0	2.6	2.5	0.0	0.0	2.2	0.0
30 船穂町	0.0	2.1	2.9	0.0	18.9	18.9	0.0	9.3
31 金光町	10.1	6.9	14.0	9.1	14.5	15.6	61.9	2.1
32 鴨方町	20.9	14.5	6.5	9.8	22.7	37.5	23.9	42.2
33 奇里町	21.9	22.2	25.6	16.1	23.1	30.2	12.8	30.8
34 里庄町	5.8	15.6	2.4	2.8	12.5	1.8	0.0	0.0
35 矢掛町	48.6	46.3	39.3	43.4	41.8	26.8	14.3	25.0
36 美星町	11.9	16.3	0.0	20.0	13.0	8.6	14.0	2.2
37 芳井町	8.3	13.8	18.2	15.2	30.8	3.7	2.6	2.5
38 真備町	32.9	30.1	27.1	44.8	27.5	21.1	14.9	35.2
39 有漢町	8.8	13.9	7.1	12.5	12.5	2.3	0.0	6.8
40 北房町	56.1	31.0	23.4	52.9	29.4	35.9	27.1	31.8
41 賀陽町	57.4	33.3	30.6	40.7	37.0	27.3	35.8	19.5
42 成羽町	39.5	36.1	55.6	57.5	48.8	30.4	18.9	37.9
43 川上町	29.4	27.3	10.0	40.5	58.5	30.6	20.0	34.1
44 備中町	35.9	37.0	23.1	5.6	21.2	5.6	7.9	17.1
45 大佐町	23.9	42.9	38.1	27.3	7.4	42.2	15.6	13.2
46 神郷町	0.0	4.7	15.0	3.8	7.7	2.7	2.3	2.6
47 哲多町	8.9	9.5	11.8	15.6	12.0	0.0	18.8	17.8
48 西郷町	28.2	15.6	30.0	10.0	28.1	66.7	14.7	9.4
49 勝山町	75.5	53.7	52.1	54.3	68.6	42.5	19.5	22.6
50 落合町	46.5	50.9	61.1	63.5	47.9	45.6	27.9	23.6
51 湯原町	18.4	18.8	10.0	11.9	31.4	25.0	8.6	6.4
52 久世町	63.0	70.2	74.5	61.1	64.0	52.0	51.0	49.0
53 美甘村	16.2	36.4	2.8	3.6	22.6	20.6	17.6	9.6
54 新庄村	25.7	22.2	8.3	14.7	16.7	11.9	2.9	0.0
55 川上村	4.3	2.9	31.3	5.1	4.0	33.3	7.4	0.0
56 八上村	44.6	41.5	78.3	18.2	41.2	40.5	24.4	32.5
57 中茂村	10.5	4.0	30.4	10.0	6.3	11.1	0.0	0.0
58 加茂村	2.0	14.6	21.1	22.0	33.3	5.3	15.4	34.5
59 富田村	2.3	26.3	14.8	0.0	11.4	18.4	0.0	0.0
60 奥津村	4.1	0.0	6.7	7.3	6.5	5.1	0.0	2.4
61 上津村	13.2	2.6	0.0	10.5	18.9	2.3	2.9	0.0
62 阿波村	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	4.8	0.0	0.0
63 勝野町	6.5	2.1	6.1	5.8	7.1	13.3	1.8	20.9
64 勝田町	42.5	0.0	32.1	4.8	22.2	13.0	17.1	8.3
65 勝中央町	58.7	34.5	34.1	30.4	33.3	50.0	40.0	35.8
66 奈義町	30.0	23.4	11.4	36.2	15.4	27.7	32.4	14.3
67 勝北町	25.0	27.3	14.6	47.1	23.3	20.8	18.8	14.0
68 大原町	41.7	57.8	46.7	33.3	62.9	20.0	43.6	24.3
69 東栗倉村	0.0	2.9	0.0	2.6	6.7	3.0	0.0	0.0
70 西栗倉村	9.8	6.1	0.0	12.1	12.9	3.2	0.0	2.4
71 美作町	56.1	78.2	43.3	42.0	48.9	57.1	34.4	37.0
72 作東町	54.0	41.2	29.7	34.8	25.8	22.7	37.1	17.0
73 英田町	25.5	19.1	12.2	14.7	20.8	10.2	25.6	9.7
74 中央町	23.6	18.0	25.5	22.2	31.0	32.4	30.2	41.3
75 旭町	18.8	16.2	34.3	6.7	40.5	34.2	13.0	10.0
76 久米町	27.7	27.9	28.3	13.3	48.7	40.4	8.3	23.8
77 米原町	5.4	2.1	4.3	14.5	3.4	3.1	13.5	10.6
78 糟原町	1.6	8.9	11.4	0.0	0.0	24.4	0.0	2.4

表4 家庭電気製品の地元購買依存度の推移

単位：%

現住所	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
1 岡山市	96.1	96.8	95.5	97.6	94.7	94.4	94.9	95.5
2 倉敷市	91.5	93.4	90.0	90.0	90.0	83.9	90.2	92.0
3 津山市	97.1	92.2	92.9	96.5	97.0	92.4	97.2	96.1
4 玉野市	82.8	75.0	82.9	75.7	73.6	71.2	63.7	52.8
5 笠岡市	88.2	82.1	85.4	82.5	64.9	62.5	72.1	77.8
6 井原市	88.5	81.9	76.9	85.5	74.0	83.6	83.0	67.3
7 総社市	91.3	75.9	85.3	81.5	76.5	90.0	80.0	75.9
8 高梁市	86.7	82.5	75.4	76.9	54.2	67.6	54.7	76.1
9 新見市	90.2	91.8	90.9	95.9	93.8	89.4	83.3	82.1
10 備前市	60.0	73.0	71.6	69.4	72.7	69.2	74.7	84.9
11 御津町	52.4	54.8	59.0	66.7	48.6	47.4	30.6	17.1
12 津部町	64.1	83.3	78.0	71.1	68.6	33.3	55.3	32.6
13 加茂川町	80.0	42.3	57.1	57.9	61.3	70.0	40.5	20.8
14 瀬戸町	59.4	61.9	57.1	29.6	46.7	13.6	32.4	37.5
15 山陽町	38.8	53.2	22.5	40.0	26.5	42.9	55.8	60.7
16 赤坂町	45.7	38.1	3.4	28.6	23.1	33.3	5.3	21.2
17 鼎山町	35.0	53.6	39.4	47.1	27.6	30.0	20.4	20.0
18 吉井町	69.4	67.6	70.3	32.1	41.9	28.6	25.5	10.5
19 日吉町	78.0	83.8	68.0	52.2	57.9	20.6	38.1	32.4
20 吉永町	33.3	50.0	36.8	50.0	40.0	35.7	24.1	21.1
21 佐伯町	26.0	33.3	50.0	21.4	23.8	8.3	29.7	4.0
22 和気町	75.0	71.4	56.3	53.6	37.5	20.0	22.2	37.1
23 牛久保町	65.2	69.2	42.5	37.1	17.2	26.9	11.1	27.3
24 邑久町	75.5	65.9	63.3	72.7	44.2	47.2	41.3	39.6
25 長船町	42.9	73.5	45.2	42.4	20.5	33.3	22.2	20.6
26 灘町	60.0	38.6	29.0	14.8	59.1	25.7	18.2	27.1
27 早島町	39.6	30.3	23.1	19.4	30.0	20.7	12.5	15.6
28 山手村	54.5	29.2	37.0	23.5	9.1	33.3	2.8	55.8
29 清音村	34.8	27.3	27.6	29.0	17.2	19.5	30.4	13.2
30 船穂町	26.2	41.7	18.9	25.7	9.1	14.7	6.1	20.6
31 金光町	60.3	60.0	38.5	51.1	38.8	25.7	89.5	32.4
32 金鷲町	60.0	55.1	44.0	27.0	42.9	60.0	28.8	61.4
33 寄島町	62.7	63.6	38.9	38.5	30.0	63.4	16.1	64.5
34 里庄町	17.8	34.6	13.0	13.0	11.1	11.5	6.1	7.3
35 矢掛町	93.2	75.5	70.8	79.6	68.2	59.6	41.3	36.4
36 美里町	69.2	48.9	39.1	63.0	44.4	52.6	42.6	32.6
37 芳井町	55.0	62.7	43.5	64.3	82.4	34.8	28.2	26.7
38 真備町	72.7	68.9	68.1	73.8	59.5	44.4	50.0	54.0
39 有漢町	64.4	55.0	62.1	61.9	38.9	51.4	4.3	41.9
40 北房町	97.8	87.1	58.8	91.9	71.4	45.5	38.2	42.1
41 翼陽町	82.6	36.8	76.0	58.1	72.7	53.5	55.3	57.7
42 成羽町	87.9	93.8	75.0	82.1	75.0	73.3	61.0	40.0
43 川上町	80.5	89.5	20.0	72.5	72.7	60.6	21.9	27.8
44 備中町	71.2	77.4	85.7	55.2	66.7	36.4	25.0	27.0
45 大佐町	75.6	76.2	78.3	45.0	37.5	53.3	68.8	4.3
46 神郷町	18.5	16.7	13.0	0.0	10.0	3.0	3.0	2.9
47 百多町	54.1	57.6	58.6	45.9	40.7	30.0	21.4	26.3
48 西谷町	48.3	53.3	68.0	47.4	15.8	50.0	55.6	28.1
49 勝山町	91.9	75.0	84.1	73.7	37.0	63.3	14.8	18.6
50 落合町	87.9	82.5	79.5	91.7	56.8	77.4	47.6	41.7
51 湯原町	69.1	57.5	93.8	48.1	33.3	27.6	10.5	29.3
52 久世町	87.9	84.2	88.2	80.0	71.8	69.2	69.7	79.1
53 美甘村	81.1	78.6	69.7	4.2	16.0	38.1	26.9	7.8
54 新庄村	21.2	26.3	11.1	5.6	42.9	8.3	0.0	0.0
55 川上村	6.7	12.5	12.1	31.6	31.8	37.0	14.3	10.8
56 八束村	79.2	68.6	81.8	50.0	26.1	22.5	34.3	25.7
57 中村	82.2	72.0	38.5	50.0	50.0	22.9	43.3	56.7
58 加茂町	53.3	44.4	53.8	48.0	55.2	26.5	44.4	52.0
59 富田村	2.6	34.8	22.2	0.0	0.0	15.6	4.2	0.0
60 奥津町	4.7	34.2	24.0	15.4	12.5	33.3	12.5	8.8
61 上原村	4.5	6.7	0.0	18.2	6.9	0.0	0.0	0.0
62 阿波村	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
63 魏野町	57.5	64.4	36.0	30.3	40.7	29.0	12.0	8.3
64 勝田町	66.7	7.4	56.3	38.1	30.0	9.5	24.1	6.5
65 勝央町	61.0	66.7	32.0	47.1	20.7	34.6	15.0	12.5
66 奈我町	78.6	70.0	61.3	73.2	0.0	2.9	47.1	3.7
67 勝北町	25.5	16.2	13.2	40.0	15.4	7.1	30.8	17.2
68 大原町	76.6	82.9	71.4	66.7	79.3	37.0	56.5	35.3
69 東栗倉村	0.0	0.0	0.0	34.5	55.6	41.2	40.0	22.6
70 西栗倉村	79.5	50.0	0.0	84.2	46.7	6.7	40.0	20.0
71 美作町	83.1	96.6	45.0	43.2	59.4	43.2	29.3	48.9
72 作東町	70.0	80.0	40.0	46.9	33.3	24.3	50.0	23.1
73 英田町	69.4	48.9	39.4	23.1	33.3	9.1	36.7	7.1
74 中中央町	61.0	63.2	60.0	62.5	48.3	29.2	29.0	41.7
75 旭町	60.7	73.2	67.6	53.6	68.4	67.6	43.3	69.2
76 久米南町	62.5	47.2	65.0	41.2	52.2	50.0	40.0	41.2
77 久米町	20.0	25.0	20.0	18.6	0.0	4.2	20.6	9.3
78 柳原町	57.9	51.3	25.6	30.2	16.7	18.2	13.2	16.7

6 商圈拡大地域の実態

以上みたように、多くの市町村では、地元購買依存度は低下傾向にある。地元購買依存度が低下しているということは、他の市町村に買物に出掛ける住民が増加していることを意味する。当然のことながら、これは一方において、購買力の流入が増加する市町村、つまり商圈が拡大している市町村＝「勝ち組」があることになる。

他地域からの購買力の流入が増加する地域は、商業集積が進み、地元購買依存度も高まっている地域であると考えられる。こうした観点から、表2、表3、表4をみると、生鮮食品では玉野市を除く9市、山陽町、吉井町、邑久町、鴨方町、真備町、久世町、勝央町が、洋服では岡山市、倉敷市、総社市、備前市、山陽町、加茂町、鏡野町、中央町など、家庭電気製品では岡山市、倉敷市、津山市、備前市、山陽町、鴨方町、久世町、加茂町などにおいて、地元購買依存度が高まっている、ないしは低下していない市町村となる。

このうち、県南部から鴨方町、県北部から久世町をピックアップし、詳しくみることにしたい。

鴨方町は県南西部に位置し、JR山陽本線、国道2号線が東西に走り、JRを利用すれば、倉敷市に17分、岡山市に32分、また広島県福山市に24分の距離にある。こうした通勤・通学の利便性から宅地開発が進み、人口は増加傾向を辿っている（表5）。

鴨方町の小売商店数をみると（表5）、昭和54年は216店であったものが、57年228店、60年216店、63年209店、平成3年235店、6年211店、9年191店となっており、一時増加した小売商店数は、平成に入り減少幅が拡大している。一方、売場面積は、54年から順に、13,433 m²、12,928 m²、11,835 m²、12,725 m²、23,810 m²、23,334 m²、34,692 m²と推移しており、反対に、平成に入って売場面積は大幅に増加している。小売商店数が減少する中で、売場面積が増加しているのは、大型店の新規立地によるものであることは明らかであろう。と同時に、大型店の新規立地が、小規模小売商店数の減少をもたらしたものと考えられるが、平成9年で、鴨方町の大型店（第1種、第2種合計）の売場面積は24,594 m²であり、大型店売場面積比率は70.9%に及んでいる（表6）。

このような鴨方町の生鮮食品、洋服、家庭電器製品の昭和54年と平成9年の商圈の変化をみると、洋服で寄島町が新たに第4次商圈に入っているのみで、商圈の顕著な拡大は認められない。しかし、第4次商圈（購買依存度が20%まで）には入らないものの、周辺地域の鴨方町に対する購買依存度は上昇している。また地元購買依存度の上昇も加わり、推定購買者数は、生鮮食品では54年の83百人から130百人に、同じく洋服は16百人から103百人に、家庭電器製品は38百人から94百人にそれぞれ大幅に増加している。

こうした購買者数の大幅増加は、大型店の新規立地つまり売場面積の拡大によるものであることは明らかであろう。

次に久世町である。久世町は古くは近畿地方と出雲地方を結ぶ出雲街道と、山陽と山陰を結ぶ大山道が交差し、旭川を上り下りする高瀬舟による水運にも恵まれ、古くより

表5 人口、事業所数、小売商店数の変化

	人口 (人)			事業所数 (所)			小売商店数 (店)		
	昭和54年	平成9年	増減率	昭和53年	平成8年	増減率	昭和54年	平成9年	増減率
岡山市	537,358	608,414	▲13.2	28,337	34,035	20.1	7,717	6,649	▲13.8
倉敷市	402,104	425,836	5.9	20,794	21,001	1.0	5,465	4,857	▲11.1
津山市	80,595	88,997	10.4	5,436	5,530	1.7	1,567	1,297	▲17.2
玉野市	79,693	72,500	▲9.0	3,444	3,271	▲5.0	1,110	865	▲22.1
笠岡市	63,747	61,315	▲3.8	3,423	3,121	▲8.8	1,010	737	▲27.0
井原市	38,346	36,005	▲6.1	2,266	1,876	▲17.2	589	479	▲18.7
総社市	48,856	56,042	14.7	1,915	2,071	8.1	673	564	▲16.2
高梁市	27,813	24,341	▲12.5	1,490	1,615	8.4	493	414	▲16.0
新見市	29,649	25,324	▲14.6	1,703	1,680	▲1.4	569	471	▲17.2
備前市	33,775	30,266	▲10.4	1,747	1,771	1.4	574	458	▲20.2
御津町	11,488	10,771	▲6.2	466	480	3.0	147	115	▲21.8
建部町	8,501	7,390	▲13.1	438	362	▲17.4	140	107	▲23.6
加茂川町	7,543	6,512	▲13.7	330	268	▲18.8	96	62	▲35.4
瀬戸町	13,732	14,746	7.4	557	540	▲3.1	218	157	▲28.0
山陽町	17,532	24,857	41.8	367	627	70.8	153	184	20.3
赤坂町	5,753	5,415	▲5.9	243	266	9.5	76	69	▲9.2
熊山町	5,943	7,665	29.0	215	254	18.1	63	51	▲19.0
吉井町	7,084	5,972	▲15.7	306	312	2.0	106	89	▲16.0
日生町	11,312	9,320	▲17.6	722	680	▲5.8	217	167	▲23.0
吉永町	5,603	5,386	▲3.9	234	272	16.2	75	69	▲8.0
佐伯町	5,223	4,365	▲16.4	180	189	5.0	53	43	▲18.9
和気町	13,913	13,095	▲5.9	528	576	9.1	190	165	▲13.2
牛窓町	9,545	8,192	▲14.2	482	426	▲11.6	175	128	▲26.9
邑久町	19,400	19,860	2.4	509	654	28.5	212	169	▲20.3
長船町	8,995	11,979	33.2	395	472	19.5	108	89	▲17.6
瀬戸町	11,058	15,958	44.3	379	504	33.0	107	139	29.9
早島町	10,275	11,627	13.2	554	490	▲11.6	114	105	▲7.9
山手村	3,054	4,127	35.1	98	125	27.6	28	27	▲3.6
清音村	4,621	5,632	21.9	141	147	4.3	34	24	▲29.4
船穂町	7,738	7,790	0.7	325	261	▲19.7	79	56	▲29.1
金光町	13,113	12,416	▲5.3	466	468	0.4	170	140	▲17.6
備前町	18,887	19,907	6.5	669	657	▲1.8	216	191	▲11.6
香島町	8,399	7,074	▲15.8	344	318	▲7.6	122	87	▲28.7
里庄町	9,989	10,809	20.2	346	448	29.5	104	104	0.0
矢掛町	18,652	17,115	▲8.2	924	893	▲3.4	276	241	▲12.7
美星町	7,142	6,144	▲14.0	374	342	▲8.6	97	72	▲25.8
方井町	7,964	6,649	▲16.5	333	353	6.0	95	83	▲12.6
真備町	20,291	23,505	15.8	571	705	23.5	197	181	▲8.1
有漢町	3,575	2,928	▲18.1	146	136	▲6.8	57	38	▲33.3
北房町	7,594	6,833	▲10.0	409	382	▲6.6	136	100	▲26.5
賀陽町	9,258	8,774	▲5.2	384	411	7.0	143	128	▲10.5
成羽町	7,545	6,219	▲17.6	471	424	▲10.0	153	116	▲24.2
川上町	5,705	4,467	▲21.7	313	354	13.1	75	75	0.0
備中町	4,806	3,322	▲30.9	242	185	▲23.6	68	51	▲25.0
大佐町	4,768	4,142	▲13.1	206	232	12.6	92	65	▲29.3
神郷町	3,316	2,729	▲17.7	131	134	2.3	44	31	▲29.5
哲多町	4,729	4,133	▲12.6	150	204	36.0	48	37	▲22.9
哲西町	3,986	3,479	▲12.7	191	192	0.5	68	52	▲23.5
勝山町	11,270	9,901	▲12.1	758	649	▲14.4	238	190	▲20.2
務合町	17,249	16,435	▲4.7	891	859	▲3.6	323	242	▲25.1
備前町	4,857	3,877	▲20.2	317	307	▲3.2	91	70	▲23.1
久世町	12,005	11,835	▲1.4	698	796	14.0	247	213	▲13.8
美甘村	2,233	1,934	▲13.4	85	80	▲5.9	33	25	▲24.2
新庄村	1,376	1,176	▲14.5	68	78	14.7	27	21	▲22.2
川上村	2,661	2,589	▲2.7	138	151	9.4	32	22	▲31.3
八束村	3,458	3,202	▲7.4	242	227	▲6.2	75	48	▲36.0
中和村	1,118	898	▲19.7	45	54	20.0	18	13	▲27.8
加茂村	6,806	5,966	▲12.3	393	303	▲22.9	123	100	▲18.7
富田村	1,271	994	▲21.8	50	41	▲18.0	15	9	▲40.0
奥津村	3,991	2,105	▲47.3	236	147	▲37.7	62	34	▲45.2
上青原村	1,151	1,037	▲9.9	46	50	8.7	14	10	▲28.6
阿波村	920	752	▲18.3	44	42	▲4.5	7	7	0.0
残野町	11,739	12,023	2.4	377	466	23.6	136	110	▲19.1
勝田町	4,788	4,218	▲11.9	226	232	2.7	76	53	▲30.3
勝央町	10,781	11,760	9.1	490	543	10.8	152	129	▲15.1
奈穂町	7,946	7,285	▲8.3	221	259	17.2	83	66	▲20.5
勝北町	7,797	7,690	▲1.4	249	354	42.2	91	61	▲33.0
大原町	5,740	5,191	▲9.6	327	337	3.1	112	90	▲19.6
東栗倉村	1,579	1,489	▲5.7	118	80	▲32.2	16	16	0.0
西栗倉村	1,990	1,885	▲5.3	67	117	74.6	25	19	▲24.0
美作町	14,249	13,555	▲4.9	876	946	8.0	273	213	▲22.0
作東町	10,428	8,307	▲20.3	454	381	▲16.1	146	120	▲17.8
英田町	4,201	3,752	▲10.7	179	187	4.5	57	56	▲1.8
中央町	8,153	7,564	▲7.2	295	409	38.6	88	61	▲30.7
中旭町	4,688	3,783	▲19.3	211	179	▲15.2	76	56	▲26.3
久米南町	7,543	6,395	▲15.2	298	275	▲7.7	112	79	▲29.5
久米北町	8,877	8,320	▲6.3	324	360	11.1	105	91	▲13.3
備前町	8,079	7,270	▲10.0	311	331	6.4	119	93	▲21.8
岡山県計	1,877,712	1,953,532	4.0	93,728	99,954	6.6	27,291	22,915	▲16.0

表6 売場面積、大型店面積の変化

	売場面積 (m ²)			第1種大型店面積 (m ²)			第2種大型店面積 (m ²)		
	昭和54年	平成9年	増減率	昭和54年	平成9年	増減率	昭和54年	平成9年	増減率
岡山市	514,385	747,044	▲45.2	133,453	321,723	▲141.1	72,912	141,084	▲93.5
倉敷市	340,797	519,614	▲52.5	50,161	187,994	▲274.8	41,916	119,561	▲185.2
津山市	108,482	147,018	▲35.5	24,726	58,057	▲134.8	8,744	34,979	▲300.0
玉野市	66,393	66,381	▲0.0	5,956	22,142	▲271.8	3,735	13,118	▲251.2
笠岡市	47,501	62,695	▲32.0		24,414		1,592	7,474	▲369.5
井原市	29,358	48,884	▲66.5	3,487	9,735	▲179.2	2,699	13,720	▲408.3
総社市	36,704	69,048	▲88.1	4,966	32,101	▲546.4	3,539	10,273	▲190.3
高梁市	24,959	37,389	▲49.8		17,915		3,353	2,663	▲20.6
新見市	30,489	27,523	▲9.7	3,168	3,168	0.0	5,163	5,913	▲14.5
備前市	23,288	35,318	▲51.7	12,127	16,032	▲32.2	597	4,653	▲679.4
津山市	7,652	8,038	▲5.0				668	2,740	▲310.2
津部町	6,430	4,436	▲31.0				698	730	▲4.6
加茂川町	3,432	2,291	▲33.2						
瀬戸町	12,021	8,383	▲30.3						
山陽町	11,242	25,680	▲128.4		15,308		555	1,504	▲171.0
赤坂町	3,228	5,146	▲59.4				5,492	7,234	▲31.7
熊山町	3,732	2,707	▲27.5					1,400	
吉井町	4,948	6,576	▲32.9						
日生町	11,729	9,317	▲20.6				1,165	1,754	▲50.6
吉永町	2,534	2,627	▲3.7				1,103	1,103	0.0
佐伯町	1,992	1,925	▲3.4						
和生町	15,106	16,497	▲9.2		6,100		1,267	6,161	▲386.3
牛久保町	6,341	6,193	▲2.3						
邑久町	11,343	21,134	▲86.3		8,157			4,721	
長船町	6,158	1,617	▲73.7					1,100	
瀬戸町	3,746	9,190	▲145.3					6,591	
早島町	2,281	5,880	▲19.2						
山手村	1,088	1,960	▲80.1						
濱首村	1,214	2,608	▲114.8						
船穂村	3,261	2,910	▲10.8						
金光町	7,222	6,918	▲4.2				802	802	0.0
備前町	13,433	34,692	▲158.3		19,919		2,875	4,675	▲62.6
寄島町	5,569	3,934	▲29.4						
里庄町	4,677	6,723	▲43.7						
矢掛町	13,333	19,806	▲48.5		3,322		2,319	5,122	▲120.9
奥井町	3,730	4,196	▲12.5						
芳井町	3,384	3,859	▲14.0						
真備町	10,846	21,913	▲102.0		3,366		2,477	5,531	▲123.3
有漢町	2,940	1,356	▲53.9						
北房町	5,344	5,098	▲4.6						
真備町	7,397	7,968	▲7.7					1,113	
成羽町	11,561	7,589	▲34.4				1,958	1,958	0.0
川上町	3,060	3,812	▲24.6					952	
備中町	1,632	1,351	▲17.2						
大佐町	4,312	2,588	▲40.0				909	909	0.0
神郷町	877	909	▲3.6						
留多町	1,299	1,500	▲15.5						
留西町	3,717	2,682	▲27.8						
勝山町	10,910	11,942	▲9.5				2,071	3,653	▲76.4
落合町	11,932	20,500	▲71.8		4,350		2,694	5,818	▲116.0
湯原町	3,747	2,542	▲32.2						
久世町	15,807	31,689	▲100.5		19,742		6,343	7,083	▲11.7
美甘村	946	1,436	▲51.8						
新庄村	792	582	▲26.5						
川上村	1,408	2,184	▲55.1						
八束村	3,655	3,826	▲4.7						
中和村	640	444	▲30.6						
加茂町	5,597	5,445	▲2.7						
富田村	257	564	▲119.5						
奥津村	1,914	1,312	▲31.5						
上原村	333	416	▲24.9						
阿波村	243	250	▲2.9						
鏡野町	6,243	7,749	▲24.1						
勝田町	2,677	2,863	▲6.9					1,350	
勝央町	8,476	10,885	▲28.4					6,285	
奈義町	5,053	589	▲88.3						
勝北町	4,846	6,207	▲28.1						
大原町	5,162	5,467	▲5.9				537	1,886	▲251.2
東栗倉村	452	1,186	▲162.4						
西栗倉村	779	771	▲1.0						
美作町	17,057	22,565	▲32.3	3,441	11,464	▲233.2	701	3,589	▲412.0
作東町	6,260	5,518	▲11.9					1,223	
英田町	1,727	3,146	▲82.2						
中央町	2,753	3,587	▲30.3				1,200	1,200	0.0
旭町	2,093	1,754	▲16.2						
久米南町	6,793	5,745	▲15.4				676	723	▲7.0
久米町	4,550	4,284	▲5.8						
檀原町	4,020	3,167	▲21.2						
岡山県計	1,588,289	2,220,166	▲39.8	241,485	785,009	▲225.1	180,760	442,348	▲144.7

美作北部の交通と経済の要衝として栄えてきた。現在も交通条件は良好で、町南部を東西に国道181号線が通り、久世町で国道313号線と合流しているし、JR姫新線が旭川に沿う形で通っている。また、平成4年12月の米子自動車道の開通に際し、久世ICが設置されている。

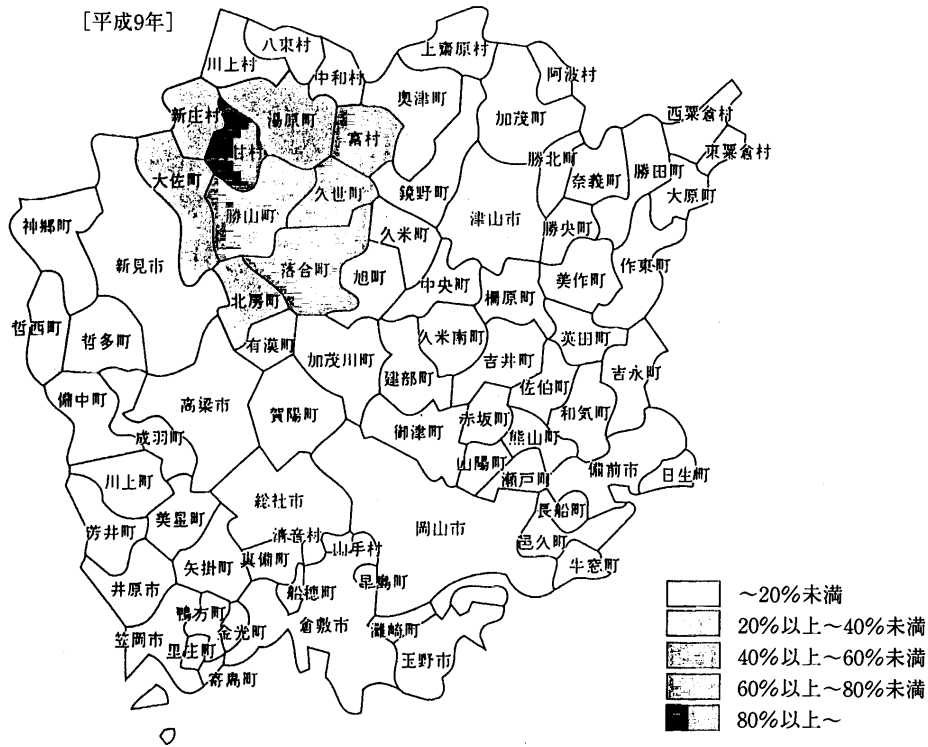
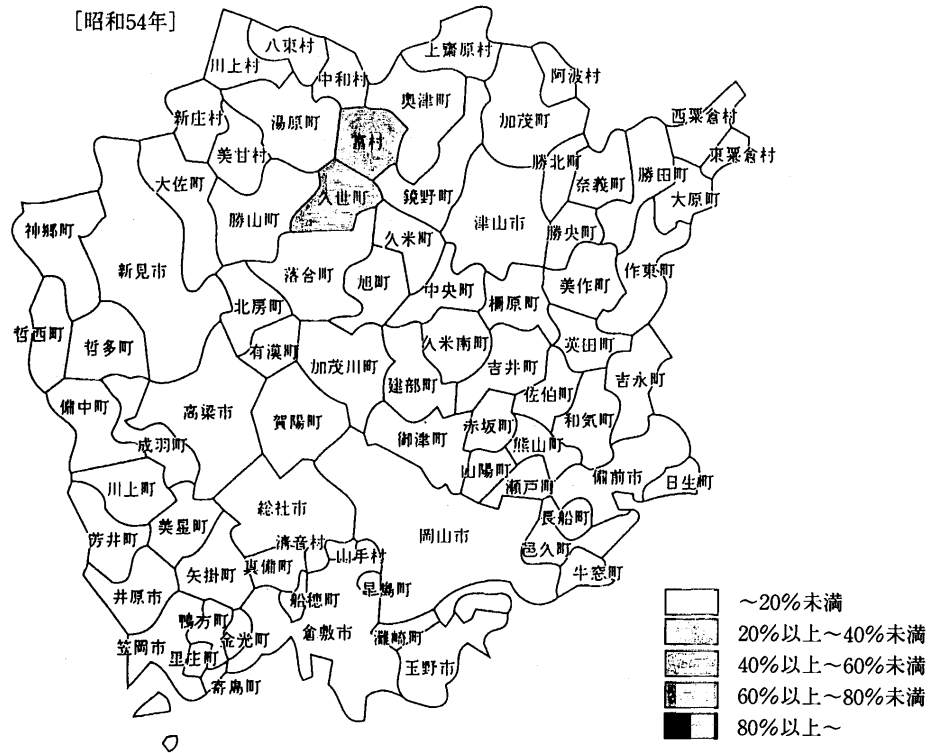
こうした久世町の商業実態をみると、小売商店数は、昭和54年の247店が、57年には250店となったが、その後は、60年237店、63年224店、平成3年221店、6年232店、9年213店と減少傾向にある。売場面積は、54年15,246m²、57年20,052m²、60年23,189m²、63年15,865m²、3年18,609m²、6年28,093m²、9年31,689m²と推移しており、大きく変動している。63年の店舗面積の大幅減少は大型店1店と多数の店舗の閉鎖によるものであるが、その後の店舗面積の大幅増加は大型店の立地によるものである。9年10月時点では、第1種大型店は、天満屋ハピータウンを核にした久世ロマンチックタウンアルティ、店舗面積10,123m²、イズミが核店舗になっているゆめタウン久世、店舗面積9,619m²の2店、第2種大型店は5店、店舗面積7,083m²となっている。この結果、久世町の大型店売場面積比率は鴨方町を上回る84.7%にも達している（表5、表6）。

久世町の商圈をみると（表7）、昭和54年には、生鮮食品、洋服、家庭電気製品とも地元久世町と富村の2町村であった。それが平成9年になると、生鮮食品では富村が第2次商圈に入り、新たに湯原町が第3次商圈に、さらに第4次商圈に落合町、新庄村が入った。この結果、久世町の生鮮食品の商圈は3町2村に拡大した。買回品である洋服は、より広範囲な地域から購買者の吸引が可能であることから、生鮮食品以上に商圈が拡大しており、第2次商圈に美甘村、第3次商圈に地元久世町、勝山町、落合町、富村、第4次商圈に大佐町、湯原町、北房町、新庄村が入ったことから、洋服の商圈は合計9町村で形成されることになった（図1）。

表7 久世町の商圈と変化

	生鮮食品		洋服		家庭電気製品	
	昭54年	平9年	昭54年	平9年	昭54年	平9年
第1次商圈 (80%以上)	久世町	久世町	—	—	久世町	久世町 美甘村
第2次商圈 (60%以上80%未満)	—	富村	久世町	美甘村	富村	富村
第3次商圈 (40%以上60%未満)	—	湯原町	富村	勝山町 落合町 久世町 富村	—	勝山町 落合町 湯原町
第4次商圈 (20%以上40%未満)	富村	落合町 新庄村	—	大佐町 湯原町 北房町 新庄村	—	北房町 新庄村 旭町

図1 久世町の洋服の商圈マップ



家庭電気製品も同様で、第1次商圏に久世町、美甘村、第2次商圏に富村、第3次商圏に勝山町、落合町、湯原町、第4次商圏に北房町、新庄村、旭町となり、商圏に入る地域は合計9町村である。

商圏の明らかな拡大から商圏人口についても、生鮮食品は115百人から151百人に、洋服は80百人から160百人に、家庭電気製品は77百人から190百人に、それぞれ大幅増加となった。

以上のように、鴨方町、久世町ともに町内では大型店が大きなウエイトを占めており、購買力の吸引機能を果たしているが、2町の吸引力には大きな較差がある。鴨方町には8店の大型小売店があり、大型店売場面積は7割に達している。これにより地元購買力の流出は食い止めているものの、商圏は目に見えて拡大していない。これは、鴨方町が倉敷市、福山市という2大都市に挟まれているためと考えられよう。

鴨方町、久世町以外でも、大型店舗面積が増加している町村、具体的には玉野市を除く9市や山陽町、邑久町、真備町などでは、地元購買依存度が上昇しており、商圏が程度の差はあれ拡大していることが窺われる。以上のように、購買行動が変化する大きな要因として商業施設の整備、とりわけ大型店の有無が大きなウエイトを占めているということが統計面から確認できた。そしてこのことは、今後とも県民の購買行動に大きな作用を及ぼすことになるであろう。

7 大型店立地地域

では、購買行動に大きな影響を与える大型店はどのような地域に新規出店するのが問題となる。それは当然のことながら、多くの購買者を集めることができる地域となろう。具体的には、人口規模の大きい地域、人口が増加している地域あるいはその周辺地域、交通の便がよい人が集まりやすい地域、近隣に有力な店舗がない地域などである。

例に取り上げた2町をこれに当てはめてみると、鴨方町は、近隣に有力な店舗がない、人口が増加している地域となる。一方、久世町は、交通の便がよい人が集まりやすい地域、近隣に有力な店舗がない地域と言えよう。

こうした点を念頭において、昭和54から平成9年の18年間の岡山県下78市町村の人口増加率をみると（表5）、岡山市、倉敷市、津山市、総社市、瀬戸町、山陽町、熊山町、邑久町、長船町、灘崎町、早島町、山手村、清音村、船穂町、鴨方町、里庄町、真備町、鏡野町、勝央町の19市町村で人口が増加している。地域別には、17市町村が県南地域である。一方、18年間で小売商店数が増加したのは山陽町、灘崎町の2町で、里庄町、川上村、阿波村、東粟倉村で増減なしとなっている。小売商店数は殆どの市町村で減少していることから、小売商店数に変えて売場面積と人口との関連をみることにする（なお、本来であれば人口増加市町村の要因を解明しなければならないが、別の機会に譲る）。

人口増加の19市町村の売場面積をみると、瀬戸町、熊山町、長船町、早島町、船穂町

の5町で売場面積が減少している。熊山町、長船町、早島町、船穂町は人口が増加しているといっても人口規模は1万人前後であり、大型店にとっては、新規出店をするまでの魅力には乏しいようである。瀬戸町は人口1万5千人弱とやや多くなっているが、岡山市に隣接し、岡山市への交通の便もよいことから新規の出店がないようである。

これとは反対に、人口が減少しているにも拘わらず売場面積が増加している市町村がある。笠岡市、井原市、高梁市、備前市の4市と、御津町、赤坂町、吉井町など28町村である。売場面積が増加した要因としては、次の3つに分類できよう。第1は、従来売場面積が非常に狭かったところに新規出店があり増加したケースである。阿波村、上斎原村、富村、神郷町などが該当しよう。第2は、第2種大型店の新規出店があり増加したと考えられるケースである。赤坂町、吉井町などがこのケースとなろう。第3は、第1種大型店の新規出店があり増加したケースで、笠岡市、井原市、高梁市、備前市の4市と和気町、矢掛町、落合町、久世町、美作町の5町が該当する。

ここで問題は、人口が減少しているこれら4市5町に、第1種大型店が新規出店した理由である。市部については人口が減少しているといっても相当の人口集積がある。また、市ということになれば地域の中心であるため、周辺町村からの購買者の流入も期待できよう。そしてこれら4市は、従来、商業集積が弱く購買力の市外流出割合が高かったところである。例えば高梁市は、昭和54年には第1種大型店が皆無であった。このため周辺市部（具体的には総社市など）の商業集積が進む中で、市外への購買力の流出が進んだ。こうした中、平成2年6月イズミ、同年11月天満屋ハピータウン（店舗面積約9千m²）が相次いでオープンした。高梁市の第6回の地元購買依存度が3品目とも上昇しているのはこのためである。また、周辺町（賀陽町、成羽町、川上町など）の高梁市への購買依存度は上昇している。

こうした点からみれば、人口が減少していてもその地域の中心地であれば、大型店にとっては、ある程度の売上げは見込めることになろう。5町についてもほぼ同様のことが考えられる。つまり、前述の久世町を除く4町をみると、矢掛町は1万7千人、美作町は1万6千人、和気町、美作町は1万3千人超と、ある程度の人口集積があることに加え、岡山市、倉敷市、津山市などの商業集積地からやや時間的に距離があり、狭い地域ではあるものの当該地域において中心的な役割を果たしているところである。つまり、大型店の新規立地地域は、人口集積があるか周辺地域の購買力を吸引できる市町村、あるいは商業集積地からやや離れている地域に立地することが言えるのではないかと考えられる。

8 商圈変化からみた地域の問題点

以上のような観点から大型店が立地するとすれば、人口が減少し、地域中心地でない町村は少なくとも大型店の新たな立地、言い換えると売場面積の増加は期待できないこ

とになる。こうした商圈の縮小地域、つまり購買力が流出している地域には様々な問題点が存在するのは当然であるが、商圈の拡大地域、つまり購買力が流入している地域も問題がないわけではない。

その第1は、購買力の流入が増加しても、それが大型店だけの購買に止まり、他の分野への波及が期待できなければ、当該地域にとって経済効果は、税収面の増加や大型店での雇用や地元商品の仕入れなどに限定され、それ程大きくはないということである。大型店が他地域の資本となればなおさらであろう。例えば、岡山市中心部の表町で、99年春のオープンを目指して岡山一の高層ビルとなるNTTクレドビルの建設が進んでいる。同ビルは約7千²m強が小売店舗で、紀ノ国屋書店、ヴァージン・メガストアーズ・ジャパンが核テナントとして決定しているが、他の入居店舗もL.L.Bean, GAPなど、県外、外資系企業ばかりで、現状、県内企業は飲食店の1社が予定されているのみである。これは極端な例かもしれないが、大型店の出店に際しては、地元企業の入居があまり見られないという例は多々あるようである。しかし何れにしても大型店の出店は、地域住民から見れば、購買店舗選択の幅の拡大、利便性の向上というメリットがもたらされているのは確かである。

第2は、地域内部の構造変化である。人口のドーナツ化現象と急速なモータリゼーションの進展による郊外型店舗の急増により、中心市街地の空洞化現象が顕著となってきている。具体的に岡山市を例にとってみると、中心部の人口は大幅に減少している(表8)。また、市内中心部での購買者数も伸び悩んでいる。岡山市の中心商店街における生鮮食品、洋服、家庭電気製品の購買者数と岡山市内での構成比をみたのが表9である。それによると、購買者数は生鮮食品と家庭電気製品はやや減少傾向が窺われるものの、洋服

表8 岡山市中心部の学区別人口の推移

単位：人

	昭55年3月31日	昭63年6月30日	平6年6月30日	平9年6月30日
内山下	5,663	4,420	3,832	3,491
深 柢	6,471	5,138	4,114	3,767
出 石	5,239	4,402	3,631	3,266

資料：岡山市「岡山市の統計」

表9 岡山市内中心部での推定購買者数と岡山市全体に対する構成比推移

単位：人、%

	第1回 (昭54年)	第2回 (昭56年)	第3回 (昭58年)	第4回 (昭60年)	第5回 (昭63年)	第6回 (平3年)	第7回 (平6年)	第8回 (平9年)
生鮮食品	77,400 24.5	79,400 26.6	74,300 23.6	78,900 24.3	78,700 25.1	87,100 26.8	76,500 21.9	70,500 18.4
洋 服	400,800 81.1	370,200 78.7	338,400 74.5	389,200 80.8	384,600 76.3	403,500 74.5	395,100 72.0	391,600 68.3
家電製品	129,200 42.8	118,000 44.0	118,000 44.3	136,900 49.0	125,000 42.9	155,800 45.5	123,700 39.0	100,600 28.2

は横ばい状況となっている。しかし、中心3商店街の岡山市全体に占める構成比をみると、岡山市での購買者数が増加していることから、平成3年以降急激に低下している。これは前述の商圈流動化時期と符合している。

こうした中心市街地の空洞化に対して、通産省、建設省、自治省など11省庁が連携する中心市街地活性化法が98年7月に施行されたことはご存知の通りである。

以上のように、購買力が流入している地域においても、地域構造の変化が進行しており、それへの対応を迫られているわけである。

9 商圈縮小地域の問題点

反対に購買力が流出している地域は、購買力が流入している地域以上に深刻な問題がある。それは、日常生活にとって欠くことのできない買物機能の低下を招いていると考えられるからである。そして、これらの地域の多くは、新規出店もあまり期待できそうにない。小売業種を細分類別にみると、洋服店のない町村も数多くある。第8回の岡山県民の生活行動圏調査結果をみると、早島町、山手村など10町村で、洋服の地元購買依存度は0%となっている。洋服は商品の特性から緊急性はそれ程ないが、緊急を要する商品、例えば、急に発熱し解熱剤が必要であるとか、風邪薬が入用の場合、「衛生統計年報」によると、熊山町、清音村、寄島町、美星町など25町村では薬局がなく、自分の住んでいる町村において薬が購入出来ない状況が生じている。

ご承知のように経済企画庁では、毎年「新国民生活指標」、いわゆる「ゆたかさ指標」を作成している。そこでは、生活活動の領域を「住む」「費やす」「働く」「育てる」「癒す」「遊ぶ」「学ぶ」「交わる」と8分類している。これからも明らかのように、「買物」は日常生活を過ごす上で大きなウエイトをなしている。つまり、地域住民が文化的かつ豊かな生活を過ごすためには、いつでも、どこでも必要な商品を自由に、選択的に入手できることが最低条件といえるであろう。

ところが現実には、これまでみたように殆どの市町村で小売商店数は減少しており、買物の利便性は低下する一方である。小売商店数の減少は買物利便性の低下のみに止まらず、小売店の集合体である商店街の衰退を招き、ひいては、地域活力の低下、地域コミュニティ基盤の弱体化などももたらすことになり、一層の小売店の減少を招くという負のサイクルに陥る危険性さえも含んでいる。

日本商工会議所が中小企業庁の補助を受け実施した「商店街空き店舗対策モデル事業報告書」(97年10月実施、全国1,701の商店街が回答)によると、全国の商店街の平均空き店舗比率は9.3%になっている。地域ブロック別にみると、平均空き店舗比率が最も高いのが四国地方で12.7%、以下、中国地方12.0%、九州地方(沖縄を除く)11.6%と続いており、中国地方の空き店舗比率は高くなっている。立地別には、農村地域が12.5%で最も高くなっており、地方での空き店舗比率が高くなっていることが窺われる。

空き店舗の増加は、購買力の地域外への流出をさらに加速させる。しかしながら大型店は、前に見たような地域にねらいをつけ出店しているため、いくら購買力が流出している地域があっても大型店の出店は望むべくもなく、小売業の魅力の乏しい地域、十分な買物機能が果たせない地域が生じることになる。

10 おわりに

わが国は高齢化が急速に進展している。高齢社会の到来により購買行動にも変化が生じることが予想される。例えば、乗用車が必要な郊外型のショッピングセンターや売れ筋商品しか置かれていない無機質なコンビニエンスストアから、徒歩や公共交通機関でアクセス可能な近隣型商店街で会話を楽しむことが出来る対面販売やバック詰めされていない商品購入への回帰などである。こうした中であっても、地域（＝郡部）の中小小売店が、今後ある程度減少するのは避けられないであろう。それは、郡部においては人口の増加が期待できないためである。

こうなると、地域住民の日常生活に支障をきたすことも考えられる。とすれば、地域の商業の問題は、従来の産業振興の観点から捉えるのでは不十分になるのではないだろうか。言い換えると、生活者の視点からの商業振興という考え方も必要になってきているように感じられる。中心市街地の活性化も重要であるが、郡部の商業の荒廃対策こそ急がれるべきではないであろうか。